

【東洋史学専攻】

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

第2学年においては専門教育科目である「東洋史研究入門」、「東洋史概説」、「東洋史特殊」、「東洋史講読」の各科目を履修し、東洋史の専門的な学習に不可欠である基礎的知識や資料の収集・読解の技術、国際的な視点や幅広い学問分野の教養を身につける。また第1学年に引き続き必修語学科目を履修し、外国語力を養う。第3・4学年においては「東洋史研究会」（ゼミナール）や「東洋史演習」などでの資料講読や研究発表、教員・学生間の議論をとおして専攻する地域・時代を定め、外国語資料の読解力を向上させながら、当該地域の政治・経済・社会・文化や国際関係について歴史的・総合的な理解を深める。さらに研究発表に必要なプレゼンテーションや論文執筆のスキルを習得する。以上の学習を踏まえ、卒業試験である卒業論文の作成は、担当教員の指導や助言を受けつつ、学生個人が主体的・積極的に進める。提出された卒業論文は担当教員を中心に複数の教員が審査をする。